

(様式第1号)

平成24年度第2回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成25年3月12日(火) 14時~15時30分
場 所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員(委員長代理) 梓 加依 委 員 白水 雅子 委 員 谷川 久吉 委 員 水谷 孝子 委 員 渡辺 宏子 事 務 局 木村館長, 丸尾館長補佐, 早戸主席主査, 山口主査
欠席者	芝 勝徳, 北里佐和子, 熊本 潤子
会議の公開	公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

平成24年度図書館事業について
平成25年度予算(案)について
その他

2 提出資料

資料 平成25年度芦屋市歳入歳出予算書(案)(抜粋)

3 審議経過

(協議会開会)

(木村館長)今年度2回目の協議会です。本日は平成24年度図書館事業について及び平成25年度予算(案)についてご説明させていただきます。本日は委員長が欠席のため,前回の協議会で委員長代理の選任を承認いただいております,梓委員長代理に委員長代理をお願いいたします。

(梓委員長代理)それではただいまから,図書館協議会を開会します。まず,会議の公開についてお諮りいたします。芦屋市情報公開条例第19条に基づき,この会議は公開としますがご異議ございませんか。異議がなければ,この会議は公開とします。

(各委員)異議ありません。

(梓委員長代理) よろしく申し上げます。では、事務局から説明をお願いします。

(木村館長) それでは、まず平成 24 年度図書館事業についてご説明いたします。事業関係では、「子どもおはなしの会」「絵本の会」「大人が楽しむおはなしの会」「親子で楽しむおはなしの会」「親子で楽しむ絵本の会」を、例年どおり実施いたしました。あとこれからのことですが、講演会を 3 月 19 日に「古代ギリシャの食文化」と題して、関西外国語大学の丹下和彦教授に講演いただく予定です。お時間がございましたら、ご参加いただけたらと思います。

実は「大人が楽しむおはなしの会」が先月ありましたので、私も初めて参加し聞かせていただきました。本を読むのでもなく、映画を見るのでもないような、お話をされる方の言葉から広がる想像の世界を初体験し、続きは本で読んでくださいとなるのですが、もう少し聞かせてほしいな、という気持ちになり、いい経験でした。

それ以外で今年度特に変更があった部分についてご説明いたします。まず、駐車場についてですが、今年の 1 月 14 日までは市の職員が管理していましたが、1 月 15 日からはタイムズ 24 株式会社に業務委託しました。

駐車場はこれまでは開館日の開館時間のみ (8:45 ~ 18:15) 利用可能でしたが、今後は社会教育施設の駐車場施設を年間を通じて 24 時間供用してもらうことによって、駐車場の有効活用を図り、市民にも便利に使っていただくということで、今回委託することになりました。図書館以外には、美術博物館、市民センター、芦屋公園・海浜公園・中央公園など各公園施設の駐車場も一括で業務委託されました。図書館利用者の最初の 1 時間無料は同じですが、駐車券をカウンター近くの割引装置によりセルフサービスで精算していただくようにしています。それと、前回議題にもありました、当図書館システムを 24 年年末から年始にかけて更新しました。特に大きな支障もなく作業は進みました。

今回のシステム変更は、蔵書検索時にインターネットショッピングのような「カート式」を導入し、簡単に予約につなげることができるようになりました。「お気に入り」本を 100 冊登録することもできます。

また、図書館設置の端末で検索内容をプリントアウトすることもできるようになりました。これにより検索画面情報をメモの代わりに利用いただけるようになりました。書庫出納についても、これまでは利用者が記入したメモの書誌情報の確認に時間を要するケースがありましたが、この端末からは正確な本の情報が打ち出され、職員が再検索する手間も省けるため、

例えば書庫へ本をとりに行く時間も早くなり、利用者の待ち時間も短くなったと思います。概ね良好なスタートを切れたと感じています。

平成24年度図書館事業についての説明は以上でございます。

(梓委員長代理) 楽しかったと言われたのは、ストーリーテリングのことですね。

(谷川委員) 学校でも、図書館教育や利用に置いて、保護者ボランティアの読み聞かせなどをしてもらったりしていますが、子どもたちが自分で足を運んで学校の図書館で本を読むということがまだ少ないので、きっかけづくりとして大人であっても「続きは自分で」といった機会があるとよいと思います。講師はどのような方ですか。

(丸尾館長補佐) 「大人が楽しむおはなしの会」には兵庫県子どもの図書館研究会の代表・芦田悦子さんに来ていただきました。定例的なおはなし会についてはボランティアの方にさせていただいています。

(梓委員長代理) 読み聞かせの会はどのようにされていますか。

(丸尾館長補佐) 毎週土曜日に小学校1年生以上は2時から2時30分、3年生以上は2時30分から3時の2回に分け、ボランティアの方だけでなく図書館の職員も入って行事を行っています。

(谷川委員) ボランティアをされているメンバーはどのような方ですか。お子さんがおられる方とか、図書が好きな方とか。

(丸尾館長補佐) 子育てが落ち着いた世代の方中心で、もともと児童文学に親しまれているとか、興味をお持ちの方が図書館の研究会に参加されて、おはなしにも協力いただいているという流れになっています。ストーリーテリングを勉強する場として「おはなしの研究会」があるので、そこで研鑽・意見交換等していく前提でボランティアさんに参加していただいています。

(谷川委員) メンバーはどれくらいの人数ですか。

(丸尾館長補佐) 20人弱です。おはなし会が毎週前半と後半があり、さらに絵本の会もあるので、今のメンバーでも大変なところはあります。

(梓委員長代理) 養成講座などで募集は行っていないのですか。

(丸尾館長補佐) 養成講座は行っていませんが、研究会がそれに該当します。絵本やおはなしの養成講座については過去に開催したことはありますが、受講後に研究会を案内しても、ボランティア活動に入っていただくという形にはなかなかつながりませんでした。

(木村館長) 今回の「大人が楽しむおはなしの会」も50人以上参加いただきました。

(梓委員長代理) 駐車場委託の件は図書館だより「みんなの本だな」にも報告

がありましたので、ご意見あればまた。では2件目の議案をご説明下さい。

(木村館長)

続きまして平成25年度予算案について、ご説明いたします。

お配りしているA4用紙3枚の資料をご覧ください。これは、現在市議会で審議中の資料の図書館に關係する部分の抜粋です。

図書館の予算は、芦屋市の予算の内の一般会計に含まれております。予算は歳入と歳出に分かれており、歳入は図書館にお金が入ってくる予定のものです。歳出は図書館が物品を購入したり、業務委託した場合にお金を支払うものです。

歳入についてはまず1ページ目ですが駐車場の収入、それと目的外使用料ですが委託業者の施設の使用料を徴収するものです。

次のページの図書館雑入はコピー代の収入などです。その下の図書整備支援事業交付金は公益法人兵庫県市町村振興協会から平成21～23年度に引き続き24～26年度まで交付金を頂けることとなりましたので計上しています。

次のページの歳出については、ほぼ例年どおりなのですが、24年度と比較して大きく変わった点、減額された部分ですが、一般事務費のその他経費の部分ですが約3,000万円減となっています。これはコンピュータシステムを24年度に購入したため25年度予算からはその分を減されたものです。

それと24年度まで行われていた築20年経過後の緊急修繕の工事が1,000万円予算計上されていましたが、その分が収束したため、25年度予算からはその分を減されたものです。

それら以外についてはほぼ例年どおりです。平成25年度予算案についての説明は以上でございます。

(梓委員長代理)何かご質問はありませんか。なければ、その他議案に移ります。何かご意見等ありましたら、自由にご発言ください。

(白水委員)先日子どもと保健センターの3歳児検診に行った時、順番待ちの方対象に保健師の方が「はらぺこあおむし」の紙芝居や絵本も4冊ほど読み聞かせをされていて、それを聞けなかったお子さんが「あの本読みたかった」と言うとお母様が「あとで図書館で読みましょうね」という流れになっていました。違う施設でもちょっとしたきっかけで図書館に人が出向くというのが素敵だなと思いました。

(渡辺委員)相互連携ですね。

(白水委員)本離れと言われていますが、選択肢が多いだけで、本だけを前に

- すると子どもは本を奪い合うようにしているという状況でした。
- (丸尾館長補佐) 芦屋市のブックスタート事業の中で、図書館の案内と登録用紙、赤ちゃん絵本のリストをお渡ししています。第2・第4火曜に職員が出向いて、絵本の読み聞かせを行っています。
- (梓委員長代理) 芦屋ではブックスタートのとき、絵本を渡してあげているのですか。
- (丸尾館長補佐) 現在は1冊さしあげています。すでに同じ本をお持ちの場合もあるので、2冊用意して選んでいただく形です。
- (梓委員長代理) いい事業ですね。では図書館への提案というところで、水谷委員、ご専門の発達心理学の立場からご要望はありませんか。
- (水谷委員) ブックスタート事業は大切ですが、読み聞かせは午後の時間帯にされているのですね。お子さんが小さいと、ちょうど午後の時間に眠くなってしまうので、行事が午前中だといいのにといい声をよく聞くのですが、午前中にも何かされているのでしょうか。
- (丸尾館長補佐) 図書館行事、ブックスタート事業ともに読み聞かせは午後に行っています。図書館主催の読み聞かせの対象が3歳以上なものですから。午前の枠ではなかなか行えていませんね。
- (梓委員長代理) 午前にするのは難しいのでしょうか。
- (館長) 幼稚園は午前中がありますからね。
- (水谷委員) ブックスタートにこれだけ関心が持たれているなか、図書館の事業が3歳以上というのはどうなのでしょう。1、2歳はとても大事ですし。
- (梓委員長代理) 「親子で楽しむ絵本の会」というのは小さいお子さんも入れるのでしょうか。
- (丸尾館長補佐) 「親子で楽しむ絵本の会」の対象は3歳以上とはなっていますが、部屋の扉を閉めないで、赤ちゃん連れのお母さんも一緒に中の様子を見て読み聞かせが聞けるようにしています。打出分室のおはなしの会では、お母さんが一緒であれば小さなお子さんも入っていただけるようにしています。
- (梓委員長代理) 今後は、小さなお子さん対象に午前中の時間帯で考えていただけるとよいですね。宝塚では赤ちゃんへの読み聞かせを行っていますし、川西市では男女共同参画団体の「パレット」というところが0歳児の子どもとお母さんがふれあう目的で手あそびなどをいれて絵本を読んでおり、とても人気があります。子育てに悩んでおられるお母さんも多いということで、子育て相談のようなことも行っているようです。0歳児というのは絵本を選ぶのも難しいですね。

- (丸尾館長補佐) 乳幼児サービスについては、専門的な知識も必要になってくるだろうということで、なかなか踏み込めない部分はありました。そこにブックスタートの話があったので、絵本に関しては図書館で、子育て相談等は保健センターでという役割分担ができるので、場所的には良いかなと思っています。
- (水谷委員) 子育てセンター等が増えていますが、絵本の選び方等で悩まれているお母さんもいますから、そこは専門的な案内を司書が行えたらよいですね。
- (丸尾館長補佐) ブックスタートの読み聞かせについては、図書館が選んだ絵本を読み、紹介するようにしています。ブックスタート事業は記録を取って、情報も共有しており、赤ちゃんへの読み聞かせについては現在、勉強させていただいているところです。
- (梓委員長代理) ブックスタートはいつから始まったのですか？
- (丸尾館長補佐) 2010年からです。
- (梓委員長代理) 図書館行事も午前中の枠でできればよいですね。
- (梓委員長代理) 渡辺委員、何かありませんでしょうか。
- (渡辺委員) 『おおきな木』という絵本が1970年代に出て、その後2010年にも違う翻訳が出たのですが、訳が違っているとぜんぜん内容が違って読み比べると面白いという話を聞いたのですが。図書館でも同じ本を読み比べるとかできたら面白いと思いました。そういう例はありますか。
- (梓委員長代理) 研究会等でされていますか？
- (丸尾館長補佐) 「こどもの本の研究会」では絵本の批評を行うのですが、確かに同じ絵本でも出版社・翻訳の違いで、印象が全く変わってしまうねといった話がでます。
- (梓委員長代理) 勉強会に来られる方だけでなく、こうした事を紹介できたらいいですね。
- (丸尾館長補佐) あとは、お母さん方からお探しの本について聞かれた時、翻訳ものは何種類か用意しますが、どれを薦めるのかという話になります。図書館がお薦めする本は手に取ってもらえない場合も多いのですが、「読みかせをされたら充分楽しめますよ。」と手渡すこともあります。
- (水谷委員) やはり本を味わうのは本人ですから、同じ題名のものがこれだけありますよと案内されてはいかがですか。
- (丸尾館長補佐) 例えば『不思議の国のアリス』のような長編を絵本にしたものはないかと尋ねられた場合、ご相談に答えると同時に「もともとは長いお話なんですよ」と案内はしています。
- (梓委員長代理) あまり司書の価値観でいかないほうがいい時もありますね。

複数あるものから選んでいただいて、ブックトークのような感じで案内されてはいかがですか。

(丸尾館長補佐) そうですね。選んでいただけるように何冊か案内するようにしています。何種類か用意すると、借りてくださる場合もあります。

(水谷委員) 『みんなの図書館』をいつも送っていただき、ありがとうございます。ここに小さな赤ちゃん向けの絵本紹介などをしていただければ。例えば、図書館でこんな絵本を読んで喜んでもらえましたよといった情報があればと思います。それは、ホームページでは見られないのですか。

(丸尾館長補佐) 赤ちゃん絵本のリストについてはホームページにも掲載していますが。

(水谷委員) それとは別に、どんな絵本を読んだのかという紹介などです。

(梓委員長代理) ちょっとそういうのがあれば、お母さん方の参考になるかと思えます。

(渡辺委員) 図書館でどんな本を読んで、それが好評だったかがわかれば、お母さん方も手に取られるかもしれませんね。

(梓委員長代理) さらに好評だった本を別置してコーナーを作ったりするのも良いかもしれません。

(梓委員長代理) 芦屋の図書館だよりを楽しみにしています。お薦めの本もあつたりしますし、資料だけでなく、そこにどんな司書がいるのかを知ってもらうことは大切だと思います。図書館だよりに載せたら、紹介した本のコーナーを作るなどされたらいかがでしょうか。

(丸尾館長補佐) そうですね。それであれば、行事の案内も同時にできますね。

(梓委員長代理) 小学校の方からは何かありませんか。

(谷川委員) 学校の方でも図書館協議会というのがありまして、そこで研究会というのがあるって、先生達も学校の取り組みの中で子どもに本を読むことに興味を持たせるにはどうするか、図書室に足を運んでもらうにはどうするかといった発表をするのですが、教科を教えるのに手一杯で、なかなかアイデア的にも乏しいところもあります。毎朝、朝の会の5分でもいいから先生が本を読むなどすれば、子どもも興味を持つのではないかと思います。

(梓委員長代理) 5分間の「ブックコマーシャル」という試みはどうですか。

5分間で1冊の本を紹介するというものです。高学年なら高学年、低学年なら低学年、1冊だけでいいのです。

(谷川委員) 小委員会では行っていますね。

(梓委員長代理) 今、川西の中学校のほうでされている取り組みがあるのですが。もともと学生のプレゼンテーション能力を高めるために始まった「ビ

ブリオバトル」というものがあります。本の紹介をしてどれがいいのか競争をするものですが、本で競争するのともうかと思ひまして、「バトル」を使わず「ブックコマーシャル」として中学校の先生に紹介したところ、まず校長先生がそれを始められ、生徒も本を読むようになって、そのうち生徒も「自分達でしたい」と言い出して、5月の連休明けあたりに生徒が行うそうです。

(谷川委員)本を買ってみて、こんなことができるのではという研究はしていますが。そういう研修というのがなかなかないので。実際に見てみないとわからないところはありますね。講師に来ていただき、話を聞けたらいいのですが。

(梓委員長代理)司書の正職員の方の絶対数が少なく、臨時職員を他校に派遣するわけにもいきません。司書教諭が専任になればよいのですが。

(白水委員)司書さんに本を教えていただきたいというのにも2タイプがあると思います。「あの人が言ったから、子どもにこの本を読ませる」という、わからないからまる投げにして選んでもらうという場合と、直木賞を獲った作品等を評論家が難しく解説したものよりも、本屋大賞のような書店員さんが薦めてくれる本の方が読みやすかったり、面白かったりするのので、図書館の人からも薦めていただくと、なじみがあっていいなと思う場合と。

(梓委員長代理)司書のお薦めというのはあってもいいと思います。人間的な視点で薦めてもらえるといいのではないのでしょうか。

(梓委員長代理)事務局の方から何か、課題等ありましたらどうぞ。

(早戸主席主査)この5年間で図書館の蔵書・利用も段々増えてきており、子どもたちへ読書環境も整えられ、成熟、転換期にきているのかなと思っています。子どもたちが落ち着いて1冊の本をじっくりと読める、太い幹のような環境づくりができればと思っています。

(山口主査)図書館1年目で勉強させていただいています。今年は先日も精道小学校2年生の先生から、国語課・生活科での「図書館たんてい」という取り組みの一環で当館をご訪問いただくということがありました。先ほどの保健センター事業などや「ビブリア古書堂の事件手帖」のように「図書」が脚光を浴びているのかなという印象もあります。また、リファレンスでも近隣市の方の利用や、専門的研究を含め、他市・大学図書館への照会も増えています。現在、芦屋市が行っている取り組みについても、報告書の外の部分でも情報発信ができればと思っています。

(梓委員長代理)本日は、いろいろな意見を頂けたと思います。それではこれで図書館協議会を閉会いたします。

以上